

研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 0 1	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Women living alone have an increased risk to develop diabetes, which is explained mainly by lifestyle factors. 独居の女性は糖尿病のリスクが高いがこれは主にその生活様式が原因と思われる。</p>	
執筆者	
Joanes Lidfelt, MD, PHD Göran Samsioe, MD, PHD Christiana, Nerbrand, MD, PHD	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Diabetes Care 2005; 28:2531-36	
キーワード	
耐糖能異常、糖尿病、独居、女性、生活様式	
要 旨	
<p>目的：家族構成が耐糖能異常のある中高年女性の糖尿病発症に及ぼす影響を明らかにすること。</p> <p>方法：スウェーデンのある地域に在住の女性 6,917 名を対象に、経口糖負荷試験 (OGTT) を行った。50～64歳の女性のうち、耐糖能異常のある 461 名を対象とした。調査開始時に、運動、食事、喫煙、飲酒についてのアドバイスを行った。その 2 年後の糖尿病の有無について再評価した。家族構成については、独居・夫と同居・夫以外の成人と同居・未成年と同居の 4 種類に分類した。</p> <p>結果：独居者は他の群と比較して、他の生体指標を調整後、糖尿病を発症する危険度が 2.68 倍 (95% 信頼区間 1.02-7.05)高かった。ステップワイズ法の解析では、教育・職業・精神衛生・運動・食事および飲酒は関連がなかったが、喫煙が有意に関連していた。独居者のほうが喫煙率が高く、喫煙本数が減少していなかった。また、独居者では、追跡時に飲酒量が減っていたり禁酒したりしている割合が高く、望ましい食習慣を維持していたり改善したりする割合は低かった。</p> <p>結論：独居女性では、耐糖能異常が糖尿病に進展する割合が高く、影響している因子は、喫煙・飲酒・食習慣であった。将来の糖尿病発症の予測をする場合には、家族構成を考慮する必要がある。</p>	